

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300016		
法人名	有限会社 FKKサービス		
事業所名	グループホームうれし家		
所在地	岐阜県養老郡養老町鷺巣1125-17		
自己評価作成日	平成25年1月9日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=2192300016-008PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは職員を含めて「自分や自分の家族を利用させたい」と思う気持ちを大切に、日々業務にあたっています。家ではおおむね一人で介護されていて、なかなか外出をさせてあげられなかった、という家族の気持ちを汲み、天気の良い日にはほとんど外出しています。また、家族様も参加可能な外食デーも設けています。地域密着型という特性も活かし、地域活動や、展覧会などにもすすんで参加するよう心がけています。身体的な介護はもちろん必要ですが精神的なケアに重きを置いています。今までの生活スタイルも大切に、新しいつながりを作っていけるような援助をしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

関西系列の事業所であるが、職員は地元住民である。職員の定着率も高く、「自分の家族、自分が利用したい」ホームを作り上げている。家族からの信頼も厚く、家族と事業所の両輪で、利用者が地域の中で、その人らしい暮らしが続けられるように支えている。地域活動には、積極的に参加し、懐かしい記憶を回想するなど、精神的なケアを充実させている。利用者が、今まで培ってきた生活スタイルを大切に、やさしく寄り添い、笑い声が絶えない暮らしを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、ケース会議、研修を行い意見交換しながら実践につなげている	「入居者中心の自立支援、地域の方々と共によりよい地域福祉の実現」を理念としている。職員会議で、日頃の支援を振り返り、理念に基づく実践ができているかを話し合い、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や外食、地域の清掃活動への参加などを行っている。	町内会に加入し、地域の清掃活動などに参加している。ボランティアや中学生の体験学習、幼稚園児と交流を深め、地域の作品展にも出展している。日常の交流を通じ、ホームの役割について話し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議やケアマネ会議などで在宅での介護の状況などを報告し合うようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加される区長様などの介護の経験談や要望もお聞きし、お互い意見交換している。	隔月に開催し、区長、民生委員、行政、家族、利用者が参加している。ホームの実態を報告し、出席者間で意見を交換している。介護体験の事例や、家族の経験談などを話し合い、サービスの改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括との連携が定着してきて、お互い報告しあって、相談もしやすくなった。	困難事例、法律解釈などは日常的に訪問し指導を得ている。空き情報などは電話やメールで連絡をとり、協力関係を築いている。行政の研修会には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中職員が見守り強化できる時間帯は施錠していないが、夜間は一人体制になるので玄関の施錠を行うことを家族に同意してもらっている。	身体拘束ゼロの取り組みに努め、危険な場面は家族と連携し、短時間にとどめている。利用者の動きを素早く受け止め、寄り添うケアで、束縛することのないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	様々な研修を行うなかにも虐待についても取り上げている。業務として全スタッフが入浴を担当するようにし、身体チェックを欠かさずするようにしている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した事はないが、身近な例を出しながら研修している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には思いつかなかった質問にも後日説明や理解をもとめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で行っている。	毎月「うれし家」通信を家族へ送り、意見が記入できる欄を設けている。家族からは、苦情に関する意見はなく、「外出やレクリエーションの協力がしたい」との意見があり、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議とは別に、個別に話をする時間を設けている。管理者も現場に入り意見を交わせるようにしている。	管理者は、毎日9時～10時までを職員の意見を聞く時間として設けている。日頃の気づきや改善課題など提案、検討し、改善につなげている。さらに、職員の技術向上を目指すことを検討している。	事業所間の交流があり、互いに経験事例を学びあい、精神面や技術面のさらなる向上に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は様々な家庭事情をもって働いているので希望休を多く取ってもらうようにするなどの対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な資格を持った職員がいるので、働きながら教え教わり、日比業務にあたっている。外部研修には希望者を優先し参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	養老町のウーループホーム協議会を設立し、お互いの運営状況や困った事例など包み隠さず話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは施設に慣れてもらうことを前提にスタッフが間に入り入居者同士の輪を広げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに家族と話し合いを重ね、どのようにケアしていくのかを相談する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長期目標を大切に短期目標を設定するように心がけている。そこへ向かって出来ること、出来そうなこと、出来ないことを家族、本人と話し合いケアするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護ではなく、介助であると考え一緒に暮らしていくにはどうするかを基本に共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも定期的に近況報告したり行事に参加してもらいながら関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いながれた喫茶店や神社、お寺などに継続して出かけられるよう支援している。	親戚、知人、友人の訪問が多く、馴染みの関係が継続できている。近隣の喫茶店、お寺、老人会に出かけ、新しい出会いや、地元の友人に会うなど、職員と共に、思い出の場所を訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り共通の趣味や過去を話題に出し、つながりが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や季節の挨拶で近況報告をたずね、フォローできることがあれば相談してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望は当たり前にあるものなので、第二の家と思ってもらえるようスタッフ、入居者同士のつながりを深められるよう心がけケアにあたっている。	入居前の生活歴を把握し、一人ひとりに合わせた会話で思いや意向を把握している。知り得た情報を職員間で共有し、一人ひとりの希望に沿うような暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まずは家族からの聞き取りだが、入所後早くなじんでもらえるように、スタッフが間に入るなかで自己紹介を兼ねて生活歴を話されるケースが多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化のあるケアプランをたてる為にも、日々現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理想は関係者が揃って話し合いを出来ればいいのだが、なかなか難しいのでホームが橋渡しを兼ねて意見交換をし、介護計画につなげている。	職員のケア記録、家族や利用者の意向を職員会議で話し合い、医師、関係者の意見も参考にし、介護計画を作成している。日々モニタリングをして、現状の把握に努めている。必要時には、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議で個別ケアについて情報交換している。毎月少しずつ計画の見直しがあり、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの通院やリハビリを継続できるよう、家族にも協力してもらっている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の展覧会や運動会に参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力も得て希望の病院、診療を受診できるようにしている。	契約時に、かかりつけ医について説明し、希望者は、協力医に変更している。月に2回、協力医の往診と歯科、精神科の往診がある。受診は、家族の都合で事業所が同行するなど柔軟に支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しているので、24時間365日看護を受けることができる。また職員も相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院をしてもらうよう話をしている。退院前のリハビリ訓練や入院時は状況を把握してもらうようお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期ケアについて説明し、同意書をもっている。併せて特別養護老人施設などへの申し込みもお願いしている。	重度化や終末期について、本人・家族に方針を説明し同意を得ている。可能な限り医師と連携し、訪問看護と協力して対応をしている。利用者の状態により、他の医療機関、老人施設等へ円滑に移動できるよう支援をしている。終末期対応については、検討中である。	重度化や終末期の対応について、家族の要望もあり、検討中である。職員の理解と研修を積み重ねることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員 定期的に救急救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行うと共に、区長を通して地域の方に避難介助を支援してもらえるように話し合いをしている。	火災訓練が、夜間想定を含め年2回、消防署指導の基に実施している。初期消火、避難誘導、通報や連絡網、器材の取り扱いなど実践している。運営推進会議で、地域との連携を検討中である。	地域の協力体制が検討中であるが、水害、地震等の取り組みについて、運営推進会議や地域全体で検討することを、期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の生活歴をもとに、NGワードなどを把握するようにしている。	人生の先輩としての敬う気持ちで対応している。浴場、トイレなどプライバシーを守るカーテンが取り付けてある。特に、誇りを損ねないように、さりげなく言葉をかけるように、気配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を出してもらおうような働きかけは特に意識していない。お互い信頼関係ができるとう自然と希望を言われる事が多いので。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日は外出レクをおこなっている。皆さん外出好きなので希望を普段から聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣の準備は自分の好きな物を選ぶよう支援している。整容は訪問散髪が2ヶ月ごとにより、希望通り行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はイベントのときなどに、ホットケーキを作ったり恵方巻きをしたりとスタッフと楽しく作っておられる。	職員は、介助しながら同じテーブルで同じ食事を食べている。利用者から料理方法や、味付けなどを学んでいる。皮むき、後片付けなどを手伝ったり、利用者も一緒に、おやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたシルバー食として材料を取り職員が調理している。水分が摂りにくい方はゼリーなど水分含有量の多いものを食べてもらうなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間に一度の訪問歯科をはじめ、先生の指導を受け口腔ケアを行っている。		

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで済ませるよう支援している。それぞれの排泄パターンを把握することで、日中の失禁が無くなった方もいる。	排泄チェック表を基に声掛けでトイレ誘導をしている。排泄パターンを把握することで、失禁が改善している。トイレでの排泄が定着するように、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に頼らないよう水分補給やヨーグルト、センナ茶を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞くようにしているが、全ての希望に答え切れていないのが現状です。	入浴は週2、3回であり、午後往診があるため、原則、午前中の入浴である。個浴を楽しむ利用者が大半で、重度者用の機械浴も設置してある。季節感を味わうための入浴剤を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特別な時間配分はしていないので本人の意志に任せて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に一度内科往診があるので、薬剤の変更相談などがあれば薬局からの説明もあり、専用のノートに書き込み共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応を重視しているので、喫茶店やドライブ、ショッピングなど希望に併せてスタッフを配置するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば家族の協力を得て一時帰宅や外食をしてもらっている。遠出希望の場合は遠足などの行事として計画を立てるようにしている。	日常は近隣を散歩し、日光浴、外気浴を支援している。2ヶ月に1回、家族と共に外食に出かけている。年間を通じ、花見、紅葉見物など遠足をかねて出かけている。	

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失のリスクもあるので持って頂けるのは3000円までとお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や年賀状のやり取りをはじめ、日常の電話もいつでもかけてもらっている。(家族の了解がある場合のみ)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の際に花を摘んで飾ってもらったり、作品を作ったりして季節感を取り入れている。トイレや洗面も分かりやすいように手作りの表示を追加している。	共同の空間が広く、台所から職員と会話を楽しみながら、食事準備をする様子が目に入り、香りも漂っている。空調設備も整い、窓からは季節感を味わうことができる。利用者が解り易いようにトイレ、浴場、玄関などに手作りの案内表示がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテレビやソファがあり、食事のあとにはみなさんと談話されたり居眠りしたりと自由な時間をすごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族、スタッフで居室作りをしている。家族には写真や賞状を持ってきてもらっている。	ベッド、クローゼットを設置し、居室が広く活用できる。好みの布団や使い慣れた整理タンス、椅子などがある。家族の写真、自分で作り上げた作品を飾り、落ちつきのある部屋で居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	定着した席位置ではなく、その日の気分や身体状況に合わせて配置を替えたりしている。		